

## 2 敏感肌

こばやし皮膚科クリニック副院長

小林美和

KOBAYASHI Miwa

### 1 はじめに

1970年代に敏感肌概念が提唱されて以来<sup>1)</sup>、一般に広く知られている「敏感肌」であるが、皮膚科学において敏感肌の明確な定義はなされていない。しかし、診療中に患者から「自分は敏感肌である」という申告を受けることがある。これらの患者から詳しく話を聞くと、「接触皮膚炎をくり返す」、「乾燥しやすい」、「化粧品をつけるとピリピリする」、「季節の変わり目に肌の調子が悪くなる」、「赤くなりやすい」、「突然顔がかゆくなる」など、さまざまな原因と症状が出てくる。診療においては、敏感肌のベースにある皮膚疾患を診断名としてカルテに記載し、治療もしくは指導を行うことが求められる。皮疹があれば対応は難しくないが、皮疹が見られない場合には病名がつけられずに苦慮する。

一方、化粧品業界では、常に「敏感肌」への対応を行わなければならない。敏感肌への対策や、敏感肌にも対応できる製品の開発を念頭に、敏感肌の理解を深めるための研究がなされている。現在まで、化粧品業界が敏感肌の研究を牽引しており、多くの検討は化粧品の開発から発展したものである。

### 2 自分は敏感肌だと思う人たち

敏感肌の実態を調査するために、各国でアンケート調査が行われている。自分自身が敏感肌であると答えた人は、日本では54.4%<sup>2)</sup>、西欧諸国では38.4%<sup>3)</sup>、米国では44.6%<sup>4)</sup>、韓国では56.8%<sup>5)</sup>と報告されており、東アジア系で敏感肌を自覚している人の割合が高い傾向がうかがえる。

フォトスキントypesと敏感肌の関係については、メキシコの調査でスキントypes IIおよびIIIのうち59%が敏感肌であると回答したのに対して、スキントypes IVおよびVで敏感肌と回答したのは32%であったと報告されている<sup>6)</sup>。スキントypesと敏感肌関連を示唆する結果ではあるが、スキントypesの違いがスキンケア製品の使用状況などに影響するために、敏感肌だと回答する割合に差が出た可能性もある。

フランスで5,000人の調査を行った報告では、全体の59%が敏感肌であると回答しているが、男性の51.9%に対して女性の66%が敏感肌であると申告しており、女性のほうが敏感肌である割合が高い傾向にある<sup>7)</sup>。Kamideらが行った1,500人の日本人を対象とした電話アンケート調査によると、男性の52.8%、女性の56.0%が敏感肌であると回答していると同時に、「敏感肌」を知らない人はいなかった<sup>2)</sup>。すなわち、「敏感肌」は一般的に受け入れられており、半分以上の日本人は「自分は敏感肌だ」と思うほど浸透していることがわかる。また、この調査のなかで、皮膚疾患の有無について質問しており、アトピー性皮膚炎であると答えた人のなかで敏感肌だと回答した人は、敏感肌ではないと回答した人の5倍であったことから、アトピー性皮膚炎と敏感肌の強い関連が示されている。

### 3 敏感肌とは

前述したように、敏感肌(sensitive skin)にはいまだ明確な定義がないが、おおよそ次のように捉えられている。通常は刺激にならないと思われるような物事を契機に、不快な症状、たとえばチクチク感、ピリピリ感、痛